横浜市立 日下小学校　　令和 元 年度版　中期学校経営方針　（ 令和 元 ～ 3 年度 ）

学校教育目標	夢に向かって　ともに歩み　未来を拓く　日下小学校 知：考えて　よく励み　やりぬく子を育てます。 徳：なかよく　つよく　のびゆく子を育てます。 体：健康な肩を組み　互いのいのちと体を大切にする子を育てます。 公・開：自立の意気を見せ　日本の明日を担う子を育てます。

学校概要					
創立　117　周年	学校長　　金子　孝	副校長　　服部　尚美	2　学期制	一般学級：18	個別支援学級：3
児童生徒数：　543　人	主な関係校：笹下中学校、上大岡小学校、南台小学校				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
チャレンジする心 ・思いや願いをもって主体的に行動する。 人とつながる力 ・人とのかかわりを大切にし、それをつないだり、広げたりする力を育てる。	笹下中学校 南台小学校 上大岡小学校	・人とのつながりを大切にし、自他を思いやった言動のとれる子 ・失敗を恐れず、自信をもって何事にもチャレンジできる子 ・「9年間で育成を目指す資質・能力」について各校で具体的な年間計画を作成し、全職員で共通理解を図る。 ・「3つのつながり」を各校の特色をふまえて9年間のプロセスを明確にする。 ・一人ひとりの教職員が「じっくり考え高め合い次につなげる確かな学び」向けて授業回線を図る。

中期取組目標	・教職員は、子どもがいきいきと自信をもって学べる学校づくりを推進します。 ・異学年ペア活動を通して子どもが自分のよさや友達のよさを認め合い、高め合えるように寄り添った指導をします。 ・地域の教育力を活用し、子どもに豊かな教育活動が提供できるようにします。 ・地域のあいさつ運動と連携して、自ら進んであいさつができる子どもを育てます。 ・児童指導の課題、いじめ防止について教職員で共有し、チームで対応する体制づくりを整えます。

重点取組分野	担当	具体的取組
生きてはたらく知	評価委員会	・基礎基本の知識・技能を活用し、主体的に課題を解決できるように授業づくりを進めます。・協同的な学習の場を積極的に取り入れ、児童間のかかわりを増やします。また、ICT機器を活用して自分の考え方や友達の考え方のよさに気づきながら、思考力を伸ばす授業づくりを進めます。
豊かな心	児童指導部会	・特別の教科道徳の授業において、児童が主体的に考え、道徳的価値をとらえられる、授業を進めます。・ペア活動を通して、異学年の交流を深め、互いを尊重する気持ちを育てます。・地域のあいさつ運動と連携して、人間関係づくりの基本としてあいさつができるように指導します。
健やかな体	体力向上委員会	・外遊びを推奨するために、学校保健委員会で引き続きテーマを設定して話し合い、児童の意識を高めます。・健康な生活をするために必要な生活要素、食・運動・睡眠について家庭と連携して、よい習慣づくりができるように指導します。
特別支援教育	特別支援児童指導委員会	・マイチャレンジを活用して、一人ひとりのニーズに合った教育活動に取り組みます。 ・国際教室を活用して、外国籍や外国につながる児童の学習について支援していきます。
児童生徒指導	児童指導部会	・教職員で情報を共有して児童の課題を把握し、迅速な対応、未然防止に努めます。 ・日下小スタンダードを教職員全体で共有し、児童にルールやきまりを守る姿勢を育てます。
地域連携	教務部	・地域のあいさつ運動と連携し、あいさつの習慣を身に付け、コミュニケーション能力を高めます。 ・地域の教育力を活用し、子どもに豊かな教育活動が提供できるようにします。 ・学援隊と連携して、登下校の子どもの安全見守りを協力して行います。
自分づくり教育	キャリア教育部会	・身の回りの仕事や社会を支えている方々に関心をもち、学校、学級内での児童自らの役割を認識し、それを実践しようとする態度を育てます。・自分のよさや友達のよさを認め合い、お互いによいところを伸ばし合えるように異学年ペア活動を充実させます。
人権教育	人権教育部会	・協同的な学習の場面を積極的に取り入れ、自分や友達のよさや考え方の違いなどを認め合えるように支援します。・一人ひとりの学びを大切にし、いろいろな考え方を認め合えるように授業を工夫します。
いじめへの対応	いじめ防止対策委員会	・毎月のいじめ防止対策委員会で、教職員で情報共有し、いじめの早期発見と迅速な対応に努めます。 ・児童に生活アンケート年2回実施し、実態把握をすすめ、いじめの未然防止に努めます。
人材育成・組織運営（働き方改革）	教務部	・メンターチーム研修を定期的に行えるように位置付け、目的を明確にした内容を計画・実施します。 ・必要な情報は文書ではなく、データで管理し、いつでも閲覧できるようにします。 ・学年研究会を充実させ、教材研究、教材開発等共有することで授業づくりの効率化と授業力向上に努めます。